

## 『診療放射線技師 ブルー・ノート 基礎編』 正誤表

『診療放射線技師 ブルー・ノート 基礎編』第1版第1刷(2003年7月30日)、第1版第2刷(2004年1月30日)に誤りがありました。ここに慎んでお詫び申し上げますとともに、以下の通り訂正させていただきます。

## 第1版第1刷

(最終更新日：2004年3月23日)

ページ	該当箇所	誤	正
p.9	one point advice 最終行に追加	しかし、骨膜や関節軟骨は通常描出できない。	しかし、骨膜や関節軟骨は通常描出できない。 <b>*ここでの濃度とは、写真濃度ではなく、X線吸収率を表している(高濃度：白い領域、低濃度：黒い領域)。</b>
p.46	Click & Click 「気管」の3行目	第4～ <u>5</u> 胸椎の高さで左右の気管支に分岐	第4～ <u>6</u> 胸椎の高さで左右の気管支に分岐
p.46	図47 気管分岐部の椎骨レベル	Th4～ <u>5</u>	Th4～ <u>6</u>
p.46	本文 1行目	第4、 <u>5</u> 胸椎の高さで左右の気管支に分岐	第4～ <u>6</u> 胸椎の高さで左右の気管支に分岐
p.47	one point advice 1行目	第4～ <u>5</u> 胸椎の高さで左右の気管支に分岐	第4～ <u>6</u> 胸椎の高さで左右の気管支に分岐
p.60	用語アラカルト「アミノ酸」 下から5行目	食物として <b>体内</b> から取り入れる必要があります	食物として <b>外界</b> から取り入れる必要があります
p.81	Click & Click 「構造」の2行目	(主)膵管 ( <u>Santorini管</u> )と副膵管 ( <u>Wirsung管</u> )をもつ。	(主)膵管 ( <u>Wirsung管</u> )と副膵管 ( <u>Santorini管</u> )をもつ。
p.87	図80 右枠の下から2行目	これらの測定には、背腹方向・ <u>FED</u> 2mで	これらの測定には、背腹方向・ <u>FD</u> 2mで
p.102	補足 1行目	鎖骨下 <u>動</u> 脈	鎖骨下 <u>静</u> 脈
p.107 p.110	Click & Click 「奇静脈系」の1行目 本文 上から4行目	奇静脈(椎体右側に存在)・ <u>副奇静脈</u> ---	奇静脈(椎体右側に存在)・ <u>副半奇静脈</u> ---
p.117	用語アラカルト 「免疫系」13行目	抗原抗体反応により、 <u>抗体</u> を攻撃し	抗原抗体反応により、 <u>抗原</u> を攻撃し

ページ	該当箇所	誤	正
p.141	表9 副腎皮質の内分泌腺	<u>球</u> 状帯---糖質コルチコイド--- <u>束</u> 状帯---電解質コルチコイド---	<del>束</del> 状帯---糖質コルチコイド--- <del>球</del> 状帯---電解質コルチコイド---
p.153	図127 e, f, g, h	<u>腹</u> 側  <u>背</u> 側	<u>背</u> 側  <u>腹</u> 側 (背側と腹側が逆に なっていました)
p.161	図134 a イラスト右側の文字	脳梁(膝) <u>側脳室(前角)</u> 透明中隔	脳梁(膝) <del>側脳室(前角)</del> 透明中隔 この用語と引き出し罫を削除
p.167	Click & Click 4行目	下垂体 <u>後葉</u>	下垂体____(削除)
p.173	補足 下から12行目 補足 下から7行目 補足 下から4行目	急性硬膜外 <u>出血</u> 急性硬膜下 <u>出血</u> 慢性硬膜下 <u>出血</u>	急性硬膜外 <u>血腫</u> 急性硬膜下 <u>血腫</u> 慢性硬膜下 <u>血腫</u>
p.264	用語アラカルト 「X線」の1行目	一般に紫外線より <u>長い</u> 波長を持つ---	一般に紫外線より <u>短い</u> 波長を持つ---
p.288	表4 質量減弱係数の意味	単位質量当たりに相互作用する確率	<u>単位断面積</u> での単位質量当たりに相互作用する確率
p.412	表6 原子数の特徴-過渡平衡	$\frac{N_B}{N_A} = \frac{B}{A-B} = \frac{T_B}{T_B-T_A} = \text{一定値}$	$\frac{N_B}{N_A} = \frac{A}{B-A} = \frac{T_B}{T_A-T_B} = \text{一定値}$
p.412	表6 放射能の特徴-過渡平衡	$\frac{A_B}{A_A} = \frac{A}{A-B} = \frac{T_B}{T_B-T_A} = \text{一定値}$	$\frac{A_B}{A_A} = \frac{B}{B-A} = \frac{T_A}{T_A-T_B} = \text{一定値}$
p.412	表6 欄外	$\frac{A_B}{A_A} = \frac{A}{A-B} = \frac{T_B}{T_B-T_A} > 1$	$\frac{A_B}{A_A} = \frac{B}{B-A} = \frac{T_A}{T_A-T_B} > 1$
p.416	Click & Click	放射化断面積 $b \text{ (m}^{-2}\text{)}$ 比放射能 $\text{Bq/kg (s}^{-1}\cdot\text{kg}^{-1}\text{)}$	放射化断面積 $b \text{ (m}^{-2}\text{)}$ 比放射能 $\text{Bq/g (s}^{-1}\cdot\text{g}^{-1}\text{)}$

ページ	該当箇所	誤	正
p.416	本文	比放射能 : Bq/g (Bq・g <sup>-1</sup> )	比放射能 : Bq/g (s <sup>-1</sup> ・g <sup>-1</sup> )
p.453	表1 壊変定数-単位 (特別名称)	s <sup>-1</sup>	削除
p.462	計数の標準偏差 相対標準偏差 (相対誤差) の式	$\frac{n}{n} = \frac{n}{n} \times 100\%$	$\frac{n}{n} = \frac{1}{n} \times 100\%$
p.468	図12 多段電極 (ダイノード)	<u>12</u> ~ 15段	<u>10</u> ~ 15段
p.474	本文 「フリッケ線量計」反応式の下	・有機不純物が存在するとG値 ( <u>後述</u> ) が高くなり	・有機不純物が存在するとG値 ( <del>後述</del> ) が高くなり 削除

第1版第2刷

(最終更新日: 2004年3月23日)

ページ	該当箇所	誤	正
p.87	図80 右枠の下から2行目	これらの測定には, 背腹方向・ <u>FED</u> 2mで	これらの測定には, 背腹方向・ <u>FD</u> 2mで
p.102	補足 1行目	鎖骨下 <u>動</u> 脈	鎖骨下 <u>静</u> 脈
p.117	用語アラカルト 「免疫系」 13行目	抗原抗体反応により, 抗 <u>体</u> を攻撃し	抗原抗体反応により, 抗 <u>原</u> を攻撃し
p.153	図127 e, f, g, h	<u>腹側</u> <u>背側</u>	<u>背側</u> <u>腹側</u> (背側と腹側が逆になっていました)
p.167	Click & Click 4行目	下垂体 <u>後葉</u>	下垂体____ (削除)
p.462	計数の標準偏差 相対標準偏差 (相対誤差) の式	$\frac{n}{n} = \frac{n}{n} \times 100\%$	$\frac{n}{n} = \frac{1}{n} \times 100\%$